

噴火湾でアカガレイの新たな卓越年級群が発生か !?

〇はじめに

噴火湾海域におけるアカガレイ若齢魚調査（ソリネット調査）に関しては、以前にも本誌で紹介していますが（No.612、No.827）、水試では噴火湾内のかれい刺し網漁業が禁漁期となっている2月に試験調査船を運行して、若齢のアカガレイの分布状況、年級群*豊度の把握等に関する調査を継続して行っています。前回の報告（No.827）では、2016年の調査結果までお知らせしましたが、その後の調査で新たな卓越年級群**の発生を予兆させる結果が得られましたので報告します。

〇アカガレイ漁獲尾数の推移

前回（No.827）にも報告しましたが、当海域のアカガレイの漁獲尾数の推移をみると、数年置きに発生する卓越年級群に依存した組成となっています。2013年以降では、2008及び2009年級群が漁獲の主体になっていますが、この2つの年級群を合わせた漁獲尾数は2014年をピークに減少傾向となっており、2018年は1996年以降で最低となった2006年の漁獲尾数に近づいています（図1）。もし、このまま新たな卓越年級群の加入がない状態が継続すると、数年後の漁獲尾数は2006年を下回ってしまうことも考えられる状況です。

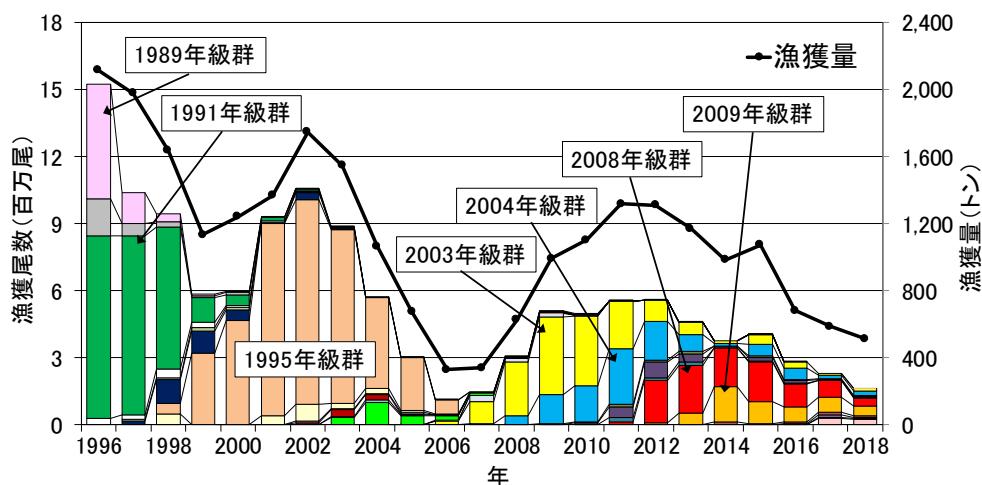


図1 アカガレイ年級群別漁獲尾数の推移

〇新たな卓越年級群が発生か!?～ソリネット調査の結果から～

若齢魚調査の概要については過去の報告（No.612）で紹介していますので、ここでは省略しますが、この調査では刺し網漁業の漁獲対象になる4歳よりも若い小型のアカガレイも採集できる目の細かい網を使用しているため、新たに加入するアカガレイの分布量や分布状況も把握することができます。これまでの調査の結果、2歳までに多数採集された年級群（2008及び2009年級群）は、その後卓越年級群になりました。また、2013年級群も2008、2009年級群と比べると2歳時の採集尾数は少ないですが（図2）、この2つの年級群に次ぐ採集尾数となっており、2019年に実施した刺し網漁業による漁獲物調査で、6歳魚として高い漁獲割合を占めました（図3）。そのため、2013年級群についても卓越年級群になる可能性があります（ただし、2019年については、各月の銘柄別の漁獲量データがまだ集まっていないため、年齢別漁獲尾数については算出できていません）。

図2のグラフで注目したいのは、2018年及び2019年の調査で採集された2歳魚（2016及び2017年級群）です（図4）。2歳時の採集尾数は、両年級群ともに2008及び2009年級群の採集尾数を大きく上回っていることから、これらを上回る規模の卓越年級群になる可能性が高いと考えられます。2016年級群については、2020年には4歳となり漁獲対象サイズとなることから、2020年以降の漁獲尾数は、回復に向かうものとみられます。

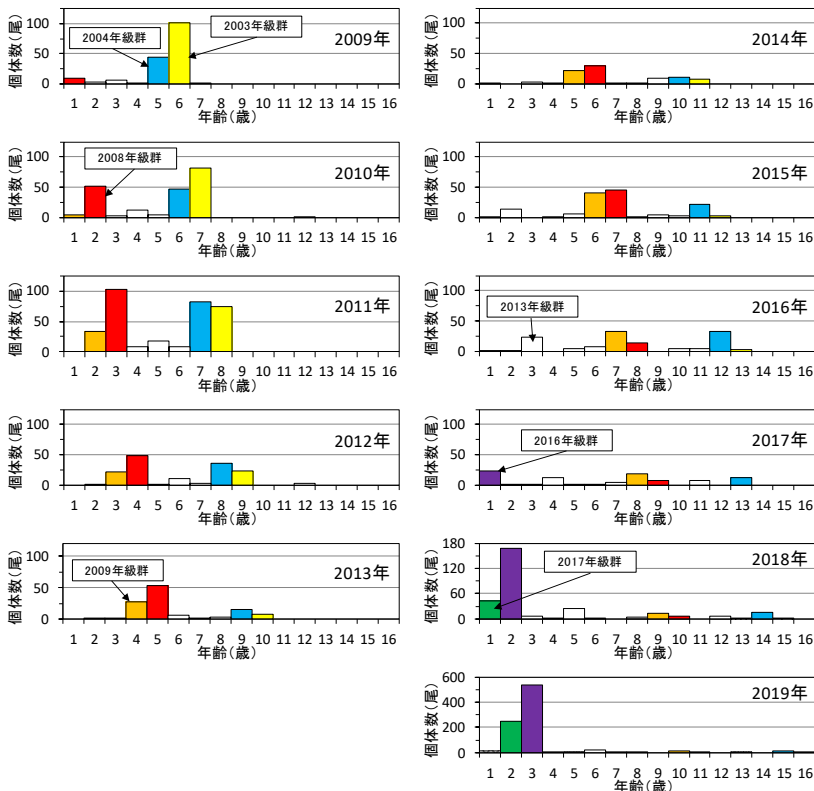


図2 ソリネットで採集されたアカガレイの年齢組成

○おわりに

若齢魚調査によって卓越年級群の発生を予測することは可能となりましたが、卓越年級群の発生間隔について予測することは困難です。当海域では最大で8年間、卓越年級群が発生しなかった期間があり、その間に漁獲量が大きく減少した経験もあるので（図1）、これから卓越年級群が加入したとしても、漁獲圧を調節しながら上手に資源を利用していくことが重要と考えられます。

*年級群：同じ年に生まれた集団のこと

**卓越年級群：発生量が他の年に比べ極端に多い年級群

（2020年2月21日 北海道立総合研究機構函館水産試験場
調査研究部 武藤卓志）

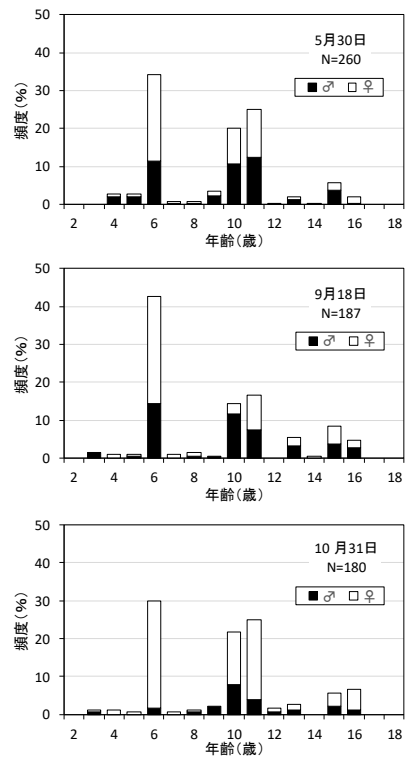


図3 刺し網で漁獲されたアカガレイの年齢組成（2019年）



図4 2019年2月の調査で採集されたアカガレイ2016年級群（上から3個体）及び2017年級群（下から3個体）